

沼津市青少年教育センター

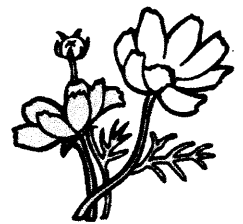
# たより

平成26年10月号 No. 509

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

平和とは人の命を守ること

人の命を守るとは平和を守ること



沼津市立第五中学校長 君島 憲生

本校では、平成14年頃から総合的な学習の時間を使って「人権・平和学習」を行っています。その意義は、今、私たちが享受している平和は、先人の努力と戦争での多大な犠牲の下に成り立っていることを生徒に伝えていくことが大人の使命であると考えているからです。

平成26年5月21日(木)、「人権・平和学習」の一環として、修学旅行第1日目に広島を訪れ、原廣司氏を講師として招いて平和講演会を実施しました。戦争当時のこと、核兵器をなくさなければ平和は訪れないこと、原爆ドームは60年前に一発の原子爆弾で悲惨な姿になっているが、一貫して戦争を否定し、核兵器廃絶を訴えているということ等を話してくれました。そして「平和とは人の命を守ること。人の命を守るとは平和を守ること。戦争は人の命を奪い、悲しみや不幸にするもの。世界の平和を築くのは皆さんです。何故ヒロシマに来られたのですか。戦争のない世界に！」というメッセージで終わりました。

講演会終了後、生徒たちが行った平和セレモニーでは、原爆ドームと対面している元安川の岸辺のテラスにおいて、本校の卒業生が作詞作曲した「想いを風に」という曲を、被爆ピアノの伴奏で合唱しました。五中生の声は周囲に響き渡り、歌い終えたとき、合唱を近くで聴いていた老夫婦の方からは、「すばらしい企画ですね。これからも続けてください。」と涙ながらに褒めていただきました。また、近くで聴いていた方ばかりでなく、対岸にいた方からも、外国の方からも大きな拍手をいただきました。

この「人権・平和学習」を通してある生徒は、「今なお原爆による影響で苦しむ人々がいるが、その数は減りつつある。被爆国日本に被爆者がいないという日がいつかは来る。当時の日本を伝えるのは、話を聴いた私たちではないか。」と述べていました。

今後も、生徒の人権・平和に関する意識を高め、人間尊重の基盤に立って互いの良さを理解し、認め合い、生命の尊さに気づき、思いやりの心と健康でたくましい心身をもった生徒の育成にあたりたいと思います。

# わたしの主張

「わたしの主張2014」静岡県大会で、優良賞に選ばれた作品を紹介します。

## 生きていく強さと勇氣

金岡中学校 3年 佐野 ころこ

「お疲れ様。頑張ったね。お父さん。」

私は父にそれだけしか伝えられませんでした。もっと伝えたいことはありました。でも、口にできたのはそれだけでした。しかし、父は無くなりそうな意識の中でも、必死で顔き、私たちに応えてくれたのです。私も母も涙が止まりませんでした。

「死ね」「うざい」私がよく耳にする言葉たちです。これらの言葉を耳にするたび、私は憤りを感じます。みなさんは、命について真剣に考えたことがありますか。私は、小学生になるまで考えたこともなかったです。考えたくもありませんでした。しかし、そのことを嫌でも考えなければならない日が、私たちの家族へとやってきました。

肺がん第四ステージ。末期がん。余命三週間。父に告げられた真実でした。当時、小学二年生だった私にとっても、それはとても信じがたいし、重く、理解に苦しむことでした。心の整理がつかず、何も理解できないまま、父の治療が始まりました。

父を待ち受けていたのは、大量の薬、抗がん剤治療、つらい検査の日々でした。父の体はみるみるうちにやせていきました。それでも父は、私の前では笑っていました。誰よりもつらいのは父のはずなのに、絶対弱音を吐かない父の姿を見て、父の強さを知りました。時には、脳に転移したがん細胞を取り除くために、九時間にわたる手術を乗り越えたこともありました。

気づけば私は小学四年生になりました。父が余命三週間と言われてから、いつしか二年が経っていました。これなら、きっとまだ生きられると父は語ってくれましたし、私もまだまだ大丈夫だと思いました。せめて私の卒業式は出たい。それが父の願いでした。

しかし、そんな日々は長くは続きませんでした。気づけば、父は集中治療室で寝ていました。二年間治療を続け、ついに肺炎を併発した父の体はポロポロで、以前の健康な父の面影は全くありませんでした。何も受け付けない体には、栄養剤が投与され、酸素マスクをつけて寝ていました。そんな父の姿を見て、私は涙を流しました。父の死がもう間近に迫っていることをひしひしと感じたからです。

そのときがいつ来るかわからない恐怖をかかえたままの二週間目の朝方、ついにそのときがやってき

てしまいました。ひどい痛みを耐えている父。私は父に聞こえるように呼びかけました。やがて、主治医の先生が投与した点滴のおかげで少しだけ落ち着いた父は、そばにいた私の手を握りしめてくれました。がんにむしばまれ、痛くてつらいはずの父に残っているとは思えない握力で、私の手を強く、固く握りしめてくれました。その手は、大きくて温かい、いつもの父の手でした。そのうちに父は、薬の効果で少しずつ意識が遠のいていきました。父に投与された薬は、痛みを抑える代わりに命を止めてしまうものだったのです。私たち家族もそれを承知の上で投与をお願いしたのです。徐々に意識が遠のいていく父に、

「いかないで。」とは言えませんでした。

ただ父に、

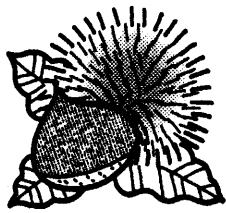
「お疲れ様。頑張ったね。お父さん。」

と、それだけ伝えました。すると、既に意識を失いだしていた父が頷いたのです。それを見た瞬間、私も母も涙が止まりませんでした。それでも笑って見送りたいくて、最後まで頑張っただけに父に笑いかけながら話しました。私が握り返した手の中で、父の手が少しずつ、少しずつ冷たくなり重くなっていくのが伝わってきました。まるで、命そのものを持っているようでした。本当にこれで最期なんだと思いながら、最後に私は父に「ありがとう。」と伝えました。そして朝日が昇る頃、父は静かに息を引き取りました。

あれから五年が経ちました。私は今病気を持っています。父ほど大きな病気ではないですが、いつ治るか分からない病気です。だから今までいろいろな人に迷惑をかけてしまいました。これからも迷惑をかけてしまうかもしれません。それでも私は一生懸命生きています。どんなにつらくても、苦しくても、父が決してあきらめなかったから、三週間の命と宣告されながらも、あそこまで生きることができたんだと思います。そして、私がつらくて立ち止まったとき、いつも支えてくれる人たちがいます。母や友だち、学校の先生や私の主治医の先生。そして、天国から見守ってくれている父です。みんなが背中を押してくれるおかげで私は前進することができます。

父は、私の心の中で生きています。だから、私はこれからも父やみんなに支えられて一生懸命生きていきます。父が教えてくれたことを大切にしながら。

# 面接相談



- ◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など青少年に関する面接相談。
- ◎相談および申し込み受け付け時間：  
午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
- ◎相談申し込み：TEL 951-3440

## 平成26年7月・8月・9月の状況

7・8・9月には新たに申込みがあった22件（7月10件、8月3件、9月9件）を含め、57件（延べ相談回数390回）の相談に応じました。

### 1. 相談内容別新規相談件数

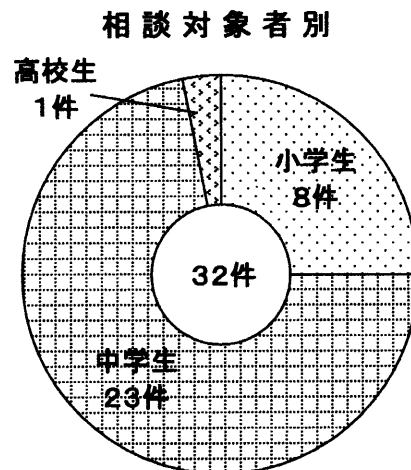
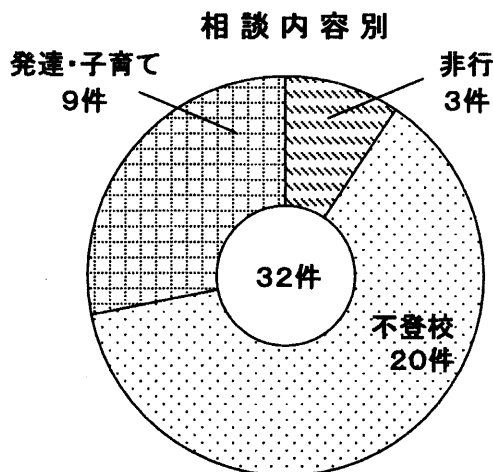
	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
7月	3	5	2	0	0	0	10
8月	0	0	3	0	0	0	3
9月	0	6	3	0	0	0	9

### 2. 相談対象者別

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
7月	0	3	7	0	0	0	10
8月	0	2	1	0	0	0	3
9月	0	0	9	0	0	0	9

### 3. 今年度の新規相談受付状況

受付件数 32件 （前年同期 36件）



4. 7・8・9月に応じた相談件数（新規相談＋継続相談）

対象	性別	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	計
幼児	男							0
	女							0
小学生	男		2	5				7
	女		2	2				4
中学生	男	3	13	3				19
	女		18	3		1		22
高校生	男		1					1
	女							0
少年	男					2		2
	女				1			1
一般成人	男					1		1
	女							0
計	男	3	16	8	0	3	0	30
	女	0	20	5	1	1	0	27
男女合計		3	36	13	1	4	0	57

5. 7・8・9月の相談回数（57件の相談に要した延べ回数）

月	性別	面接	訪問	その他	合計
7・8・9月	男	189	24	38	251
	女	120	15	4	139
	計	309	39	42	390

相談指導学級  学級担当 

学級では、基本的に午前中は学習活動、午後は創作活動（火曜日のみスポーツ）という日課になっています。学習活動への取り組みはますます真剣味が増してきました。学習方法に支援・助言を要する生徒もいますが、ほとんどは自分で課題を見つけて進めています。

7月23日(水)、学校の1学期終業式の前日に相談指導学級の1学期が終了し、学校と同様夏休みに入りました。夏休み中は相談指導学級を可能な限り開級し、午前中だけですが通常と同様学習活動を行いました。現在中学生だけですが、自分の進路も考えながら熱心に学力向上に努めていました。夏休み中も個々に様々な変化が見られ、成長を感じました。

体験活動はばたきは、農耕体験（畑の除草活動等）、創作活動、福祉体験活動など、バラエティに富んだものを実施しています。どの活動も決して楽なものではなく、充実感・達成感等が十分味わえる活動であり、体験を通じて何かを学び取り、これからの社会生活に生かしてくれればと願っています。

2学期は何事にもじっくりと取り組みやすい学期です。充実した日々を過ごし、確実な成長をしてほしいと願っています。たとえ少しずつの歩みでも……。

# 電話相談



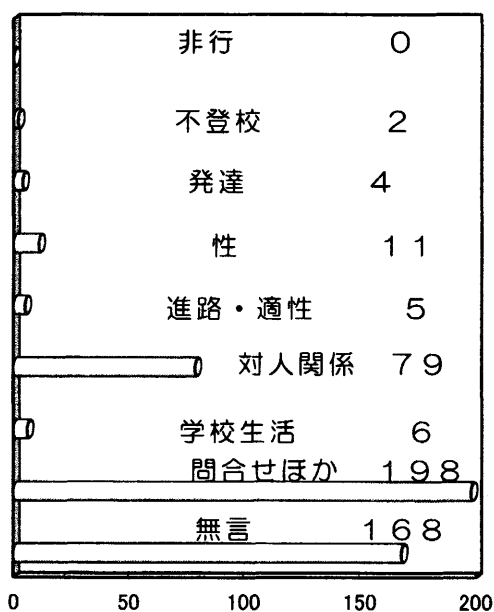
◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。  
 ◎相談時間：午前10時～午後7時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 平成26年7・8・9月の状況

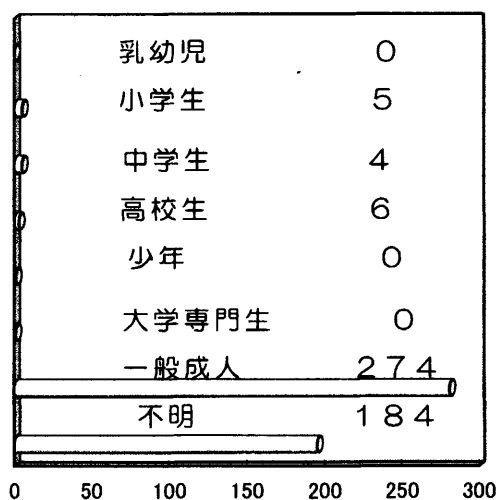
7月には161件、8月には144件、9月には168件の相談が寄せられました。  
 （前年7月：170件、前年8月：161件、前年9月：141件）

### 1. 7・8・9月の相談状況

相談内容別件数



相談対象者別件数



### 2. 今年度の電話相談受信件数状況(平成26年度)

総件数 964件（前年同期 1,302件）

#### (1) 相談内容別

内容	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せほか	無言
件数	0	4	8	22	7	160	15	409	339

#### (2) 相談対象者別

内容	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	10	9	9	1	1	555	379



# 小規模校の特長を生かして

沼津市立長井崎中学校 中村 太一

私が勤務する長井崎中学校は、沼津市南部の内浦・西浦地区が校区で、全校生徒82人の小さな学校である。漁業、みかん栽培などの農水産業や、水族館や旅館・民宿などの観光業が主な産業であり、子どもたちもそれらの仕事をお手伝いしている姿がよく見られる。

さて、長井崎中学校の現在の生徒の様子は、とても落ち着いていると言えるだろう。しかし、いろいろな事情を抱えた子どもや家庭の割合は、市街地の中学校と変わらないくらい高い。私は3月まで内浦小に在籍していたが、内浦小でも長井崎中でも共通して言えることは、事務室や給食室の方々も含めて、学校全体で児童・生徒の理解をし、学校の教職員のみならず子どもたちに声かけをして、子どもたちを見守っている。「〇〇さん、おはよう」など、小規模校の特長を生かして、ほとんどの教職員が子どもたちみんなの名前と顔を覚えている。「△△さんに声をかけたけど今日は一人で帰っていたね」など、子どもたちの変化で気になったことをすぐに全職員で共有し、みんなで温かく見守る体制ができています。小中学校9年間ですべて単学級でクラス替えがなく、人間関係が固定化されているこの地域の子供たちの中には、少しの変化で学校に来ることができなくなってしまっている子もいる。そのような子どもたちの変化を学校全体で見守り、情報を共有して指導に生かすことで、子どもたちは元気に安心して登校できると感じている。そして、保護者を含めた地域の方々も、子どもたちをみんな知っていて、一人一人に温かい声かけをしてくれている。地域の子供たちは地域で育てるといった雰囲気がいましっかりと根付いており、学校と地域が一体となり、協力し合いながらこれからも子どもたちに温かい声かけをして、成長を見守っていきたいと思う。

## 1 少年補導委員の延べ参加人数（7月～9月）

区別	市職員	教員	地区補導委員	女性補導委員	母親補導委員	警察関係	総数	
人数	7月	6	2	202	11	7	2	230
	8月	8	3	560	15	3	0	589
	9月	11	22	296	10	8	0	347

## 2 補導回数・補導状況（7月～9月）

	補導回数				声かけ 注意・指導	事後指導	
	午前	午後	夜間	計		学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
7月	2	6	13	21	44	0	0
8月	3	7	48	58	103	0	0
9月	2	14	36	52	101	0	0

## 3 平成26年度 4月からの補導活動累計

補導回数	延べ参加補導委員数	声かけ 注意・指導	事後指導	
			学校・親等へ連絡	他機関へ連絡
256	2114	510	0	0

7月・8月・9月の街頭補導少年の学職別状況（中央補導・地区別補導）

この期間は夏休みがあり、街頭に青少年の姿が多く見られる時期でした。それに対応して補導活動も強化され、特に夏祭りには、特別補導に多くの方が協力して下さりありがとうございました。2学期に入ってから、これまでのところ比較的落ち着いた状況です。

区分	学職別		小学生	中学生	高校生	その他学生	有職少年	無職少年	計	四月からの 累計
	性別									
飲	酒	男							0	
		女							0	
喫	煙	男							0	2
		女							0	4
夜間はいかい		男			3				3	9
		女			3				3	29
不良交友		男							0	
		女							0	
怠学・怠業		男							0	
		女							0	
ゲームセンター入場		男	10	21	43				74	138
		女	7	12	10				29	69
パチンコ店入場		男							0	
		女							0	
カラオケ店入場		男							0	0
		女							0	0
自転車の暴走行為		男		3	1				4	4
		女			2				2	2
自転車の二人乗り		男		2			1		3	6
		女					1		1	3
自転車の無灯火		男		3	5				8	18
		女			2				2	4
危険な遊び		男							0	0
		女							0	0
その他		男	4	16	58		1		79	142
		女	4	8	28				40	80
計		男	14	45	110	0	2	0	171	319
		女	11	20	45	0	1	0	77	191
男女合計			25	65	155	0	3	0	248	510

事後 指 導	家庭・学校・職場へ連絡	男							0	
		女							0	
	他機関へ連絡	男							0	
		女							0	
合計			0	0	0	0	0	0	0	0

# 情報コーナー

## 知ってますか？ 『危険ドラッグ』の本当の怖さ

「脱法ハーブ」が原因とみられる交通事故が多発したことから、より危険度を喚起するために「危険ドラッグ」と名称が変わりました。そんな危険な「ハーブ」が沼津市でも販売されている可能性があります。現に、「危険ドラッグ」を使用したと思われる交通事故が、市内でも起こりました。

「危険ドラッグのどこが、危険なのか」といえば、第1は、その販売ルートです。入手方法はハーブショップ、アダルトショップ、インターネットと様々ですが、「合法ハーブ」として販売されています。規制を逃れるために、お香、芳香剤として販売されていることもあります。従って、比較的容易に、入手できる状態にあります。第2は、多様な成分が含まれているため、幻覚、幻聴に留まらず、どのような悪影響が心身にもたらされるか不明なものもあることです。第3は、常習性です。「危険ドラッグ」を買う金ほしさに犯行に及んだ事件も発生しています。このような「危険ドラッグ」に関する正しい知識を身につけるとともに、「誘われても断る強い心」をはぐくんでいかななくてはならないと思います。



静岡県薬物乱用防止県民大会      平成26年11月1日（土）13：30～  
 プラサ ヴェルデ <コンベンションホール A>  
 主催：静岡県薬物乱用対策推進本部      共催：沼津市・沼津市教育委員会  
 特別講演：加藤 秀視 氏 「自分を愛する技術」～パワーパーソンとなるために～

## センターの活動予定（11月・12月・1月の主な活動予定）

日 程	活動（行事）予定	日 程	活動（行事）予定
11月 3日（月）	高校生による落書きクリーン作戦	11月20日（木）	防災センター等見学
7日（金）	第4回補導委員会代表者会	12月 4日（木）	みかん収穫
13日（木）	大型店補導連絡会	18日（木）	調理
29日（土）	高尾山祭典特別補導	1月15日（木）	ものづくり
12月12日（金）	県内一斉補導 【体験活動はばたき】	22日（木）	労働体験 ※天候等諸事情により、変更することがあります。
11月13日（木）	文化財発掘		

## 明るい子どもが育つまち

青少年健全育成シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言（昭和55年）

**あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪**

青少年を、優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート（心）を表しています。